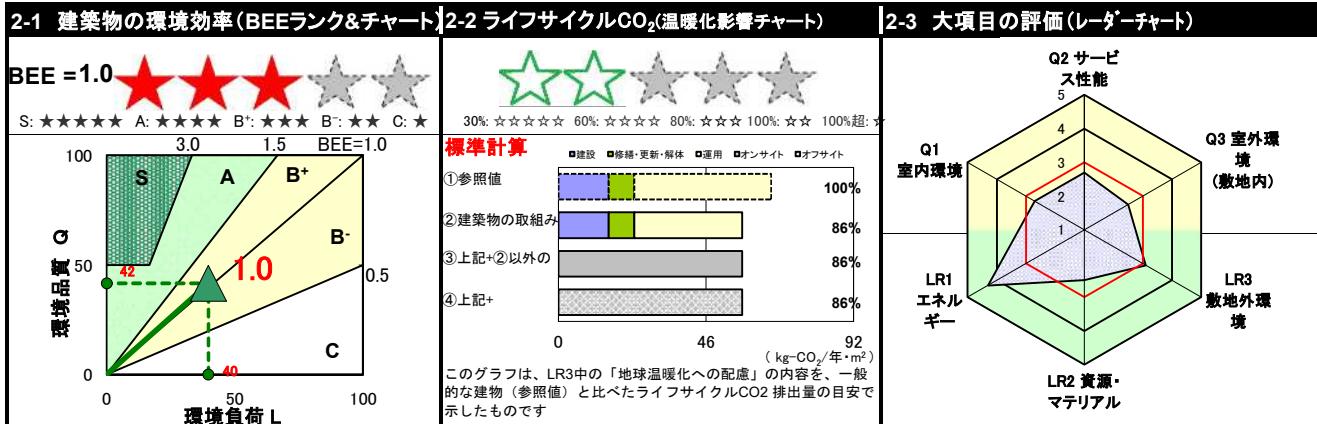


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	邸新築工事	階数	地上4F
建設地	埼玉県朝霞市北原二丁目7番1、7、8	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2025年10月22日
敷地面積	1,028 m ²	作成者	
建築面積	612 m ²	確認日	2025年10月22日
延床面積	2,094 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項

総合

ゆとりのある空間と緑化計画を行い、利便性・居住性の良い住環境を提供し、入居者が快適に過ごすことが出来る設計とした。

その他

特になし。

Q1 室内環境

各住戸高断熱アルミ複合サッシ・LOW-Eガラスを採用しており、断熱等級4以上を満たしている。

Q2 サービス性能

階高2.9mとゆとりのある空間を提供している。

Q3 室外環境 (敷地内)

敷地内に緑化計画を行っている。

LR1 エネルギー

断熱等級4以上を満たすことで、一次エネルギー消費量削減に努めている。

LR2 資源・マテリアル

特になし。

LR3 敷地外環境

広告物照明の設置等なく、近隣への配慮がされている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目	スコア						
Q 建築物の環境品質							
Q1 室内環境							
1 音環境							
1.1 室内騒音レベル	2.0	0.15	2.7	1.00	2.5		
1.2 遮音	3.0	0.50	3.0	0.50			
1 開口部遮音性能	1.0	0.50	2.4	0.50			
2 界壁遮音性能	1.0	1.00	1.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	3.0	0.30			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	3.0	0.20			
1.3 吸音	-	-	3.0	0.20			
2 溫熱環境	1.0	0.35	3.3	1.00	2.8		
2.1 室温制御	1.0	0.50	3.7	0.50			
1 室温	1.0	0.63	3.0	0.63			
2 外皮性能	1.0	0.38	5.0	0.38			
3 ゾーン別制御性	-	-	-	-			
2.2 湿度制御	1.0	0.20	3.0	0.20			
2.3 空調方式	1.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境	1.5	0.25	2.7	1.00	2.4		
3.1 昼光利用	1.8	0.30	2.0	0.30			
1 昼光率	1.0	0.60	1.0	0.50			
2 方位別開口	-	-	3.0	0.30			
3 昼光利用設備	3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策	1.0	0.30	3.0	0.30			
1 昼光制御	1.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度	3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御	1.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境	3.0	0.25	2.7	1.00	2.8		
4.1 発生源対策	3.0	0.60	3.0	0.63			
1 化学汚染物質	3.0	1.00	3.0	1.00			
4.2 換気	3.0	0.40	2.3	0.38			
1 換気量	3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能	-	-	1.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮	3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理	-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視	-	-	-	-			
2 喫煙の制御	-	-	-	-			
Q2 サービス性能	-	0.30	-	-	2.7		
1 機能性	2.1	0.40	2.6	1.00	2.4		
1.1 機能性・使いやすさ	3.0	0.40	3.0	0.60			
1 広さ・収納性	-	-	3.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応	3.0	1.00	-	-			
3 バリアフリー計画	1.0	0.30	2.0	0.40			
1.2 心理性・快適性	-	-	3.0	0.50			
1 広さ感・景観	-	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-			
3 内装計画	1.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理	2.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	2.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	2.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性	2.8	0.30	-	-	2.8		
2.1 耐震・免震・制震・制振	3.0	0.50	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	3.0	0.80	-	-			
2 免震・制震・制振性能	3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数	3.0	0.30	-	-			
1 軸体材料の耐用年数	3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	3.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性	2.2	0.20	-	-			
1 空調・換気設備	1.0	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備	2.0	0.20	-	-			
3 電気設備	3.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備	2.0	0.20	-	-			

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.9	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	階高2.9m	-	-	2.8	0.50	
	2 空間の形状・自由さ		-	-	4.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり			-	-	1.0	0.40	
3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性		3.0	-	3.0	0.50	
	2 給排水管の更新性		3.0	1.00	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.20	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.20	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.10	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.10	-	-	
			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	住戸部断熱等級4を超える		5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化	[BEI]/[BEIm] = 0.73		5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.5
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	換算スコア3.5 ライフサイクルCO2排出率86%		3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称

邸新築工事

BEE

1.0

BEEランク

★★★

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア

3.5

+

2.6

=

6.1



重点項目の各スコアの合計点

がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減

スコア平均 3.5

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

LR3 敷地外環境対策

1. 地球温暖化への配慮

スコア 3.5

<配慮した内容を記述>

換算スコア3.5 ライフサイクルCO2排出率86%

(2) 緑の保全・創出

スコア平均 2.6

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

Q3 室外環境(敷地内)

1. 生物環境の保全と創出

スコア 2.0

Q3 室外環境(敷地内)

3. 2 敷地内温熱環境の向上

スコア 3.0

LR3 敷地外環境

2. 2 温熱環境悪化の改善

スコア 3.0

<配慮した内容を記述>

敷地内に緑化計画を行っている。

: 入力欄